

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2010.APRIL vol. 13



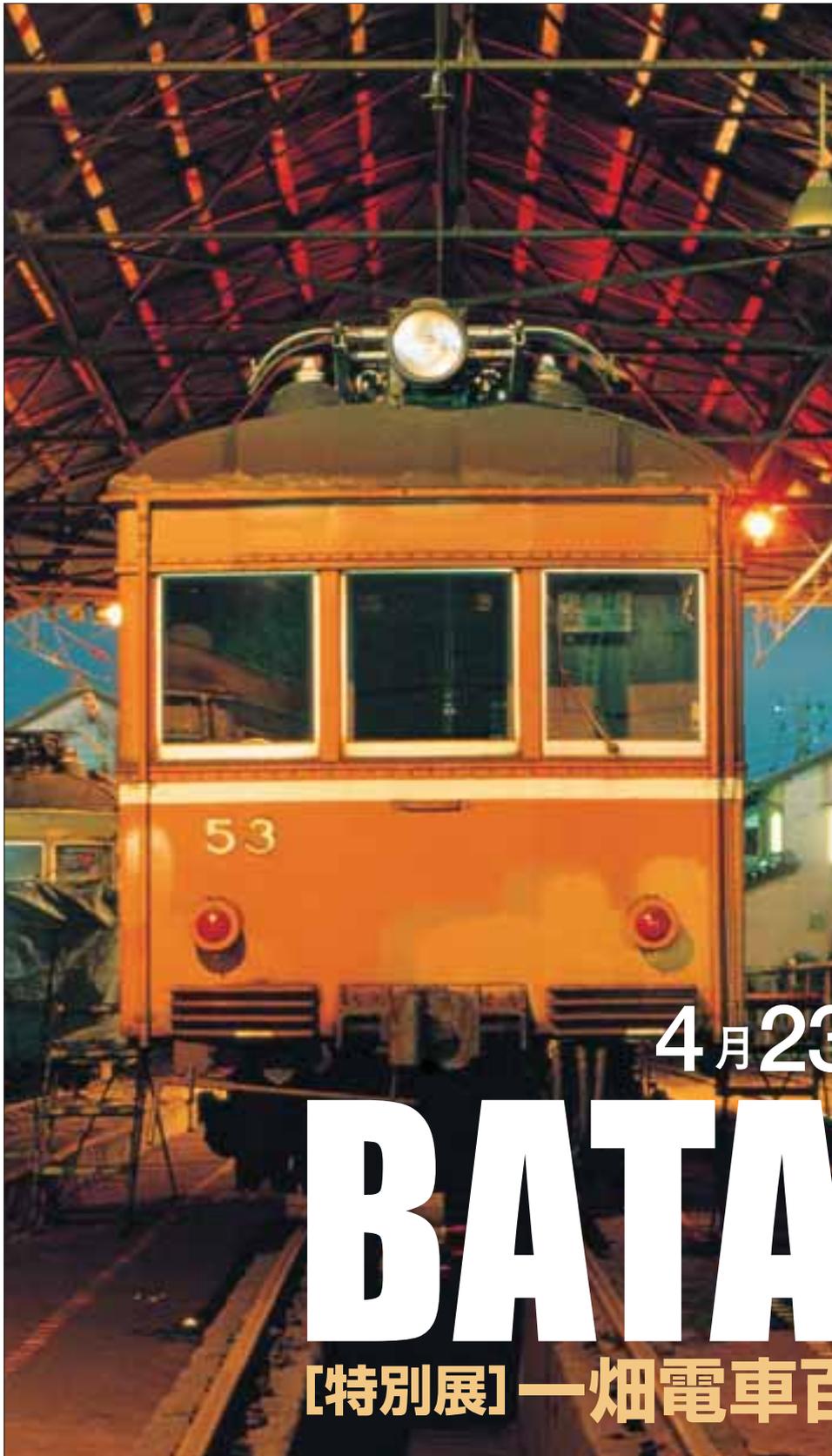
CONTENTS

2・3 春の特別展「BATADEN」特集

4・5 3周年特集・博物館だより

6 学芸員通信・古代文化センターだより

7 山陰歴史回廊 8 企画展スケジュール



よみがえる『夢の国』

一畑パーク

一畑電車が舞台の映画

RAILWAYS

49歳で電車の運転士になった男の物語

も紹介！

「BATADEN 一畑電車百年ものがたり」実行委員会

島根県立古代出雲歴史博物館・一畑電気鉄道株式会社・一畑電車株式会社
一畑電車沿線地域対策協議会(島根県・松江市・出雲市)・社団法人島根観光連盟
山陰中央新報・ミュージアムいちばた

4月23日(金)⇒7月4日(日)

BATADEN®

[特別展] 一畑電車百年ものがたり

特別展 「BATADEN[®]」へのご招待

明治45年（1912）に一畑軽便鉄道株式会社が創設されてほぼ100年。特別展「BATADEN[®]」は、すでに廃線となった立久恵線（旧大社宮島鉄道）、広瀬線（旧広瀬鉄道）を含め、懐かしい音を立てながら走ってきた一畑電車^{BATADEN}の歴史を縦糸に、一畑パークや、洗濯機、白黒テレビ、噴水型ジュース自動販売機など高度成長期の世相を語る資料を織り交ぜながら、私たち一人ひとりの思い出を紡ぎ出す文化遺産の展示です。

1 一番古い車両

一畑軽便鉄道時代は残念ながらよくわかりません。大社宮島鉄道では、明治20年イギリス製の車両で、昭和7年に大社宮島鉄道に加わったハフ21号です。後に法勝寺線に加わり、現在も米子市で静態展示されています。現役という意味では、一時、一畑電気鉄道に在籍した昭和2年製の電気機関車ED221が、弘南鉄道（青森県）でラッセル車として現在も運行しています。



750号

2 在籍した蒸気機関車

少なくとも一畑軽便鉄道に4台、大社宮島鉄道（後の立久恵線を含む）に4台在籍していたことが確認できます。軽便鉄道の4号車は大正10年ドイツ製で、現在、大井川鉄道（静岡県）に静態展示されています。



いずも号

3 謎のクハ3-4号

一畑電気鉄道の自社発注車は、昭和2-3年製のデハ1形6両、昭和3-4年製のデハニ50形の4両です。最後まで残っていたデハニ52・53号も昨年、惜しまれながら引退しています。ところで、記録上では、もう2両、クハ3-4号（昭和3年製）が確認できます。竣功時の図面のみ残されており、その後の経歴は謎に包まれています。御存知の方、御連絡を！

4 BATADENの前歴はさまざま

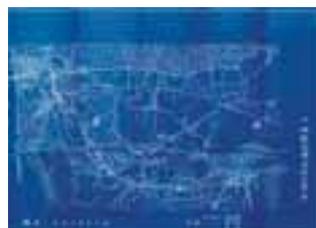
例えば昭和15年～昭和34年に在籍したクハ109号（一次）のように、古くに在籍した車両の多くは、その前歴は国鉄です。昭和30年以後のデハ11号（一次）、クハ100形（二次）、60系（一次）、70系、80系、90系（60系二次）の前歴は西武鉄道、現在も現役の2100系・5000系は京王帝都電鉄、3000系は南海電鉄（高野線）です。電車も全国各地を移動しているのです。



70系さよなら運転ヘッドマーク（一畑電車株蔵）

5 電車の移送

一畑電気鉄道が旧国鉄線とつながっていた頃は、線路により電車は移送されていました。3000系は伯備線で東松江まで移送された後陸送されました。2100系や5000系は船で安来港まで運ばれ、その後9号線を陸送されています。



今市大社線線路予測図

6 一畑電気鉄道大社線は、旧国鉄線に沿って計画されていた

大社線は、昭和5年に川跡・大社神門（出雲大社前）間の営業が開始されていますが、大正13年の申請時には、旧国鉄線に沿った形で線路予測図が描かれています。

〈まるごと電車ミュージアム〉 かつて一畑電車に在籍した電車などは色々な場所で見ることができます。

- 古代出雲歴史博物館 デハ23号（昭和2年製、旧デハ1号）の一部（右ページに掲載）
- 一畑電車株 デハニ52号・53号 映画RAILWAYSにも登場。このうち1両が特別展期間中、出雲大社前駅に展示される予定です。
- さとがた保育園（出雲市里方町） デハ3号・6号（昭和2年製）
デハ6号は内部も見学できますが、見学の際は保育園まで連絡（TEL 0853-21-4517）してください。
- 元町商店街パティオ広場（米子市）
フ50号（明治20年製、旧大社宮島鉄道ハフ21号）



デハ6号（さとがた保育園にて展示）

百年ものがたり……夢イベント

「古代出雲歴史博物館」駅

楽しい夢の国・ バタデンまつり

■5月のバタデンまつり
(5月1日～5日)

■6月のバタデンまつり
(毎週:土・日曜日)

※バタデンキッズ大集合!

※ミニ電車が走ります。

※電車ジオラマ、電車クイズも
あります。

■焼き玉エンジン大集合!
(5月23日)

「特別急行バタデン号」が走ります。

■夢の国・紙芝居電車

電車の中で、絵本と音楽のコラボレーションライブ。子ども達が歌って踊る<よしととひうた>によるその名も「夢の国電車」。出発進行します!

5月16日(日) 9時:松江しんじ湖温泉駅発(8:45集合)→
→出雲大社前駅→古代出雲歴史博物館

定員:30組(要申し込み)

参加費:中学生以上1,200円/小学生600円(未就学児は無料)

■映画RAILWAYS電車

5月29日から全国公開される映画RAILWAYSを追体験する特別仕立ての特別電車です。

当日は、錦織監督をはじめ映画関係者も同乗される予定です。

6月13日(日) 9時:松江しんじ湖温泉駅発(8:45集合)→
→雲州平田駅(途中下車)→出雲大社前駅→古代出雲歴史博物館

定員:80名(要申し込み)

参加費:1,500円/小学生800円(未就学児は無料)

※上記2企画は、片道運行費用です。

出雲大社前駅

高浜駅

雲州平田駅

松江しんじ湖温泉駅

さとがた保育園
(デハ3号・6号を展示)



「デハ350形」
特別展期間中
出雲大社前駅に
実物展示!!

バタデン・スタンプラリー

(4月23日～7月4日の会期中実施)

松江しんじ湖温泉駅・雲州平田駅・電鉄出雲市駅・出雲大社前駅・古代出雲歴史博物館にスタンプポイントを設置。

3つのスタンプで、記念品をゲット!
(5つそろうとさらにプレゼント)

電鉄出雲市駅

夢の軌跡をたどる バスハイクツアー

5月30日(日) 8時30分:古代出雲歴史博物館集合

歴博一(バス)→所原一(ハイク)→乙立一(ハイク)
→立久恵一(バス)→須佐一(バス)→歴博

※要参加申し込み

参加費:3,500円/小学生以下2,500円
(バス代・昼食代等)

※温泉入浴各自負担

「朝山」「須佐」駅

夢のヘッドマーク電車が走ります。

出発式 4月25日 9時:松江しんじ湖温泉駅(9:20発)

特別展「BATADEN」期間中、ヘッドマークをつけて
運行します。

【申込】

電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームにて
受付。定員になり次第締切とさせていただきます。

※各イベントの予定については、都合により時間・内容等が若干変更される場合があります。予めご了承ください。

■大井川鉄道プラザロコ(静岡県島田市)
いずも号(大正10年製、旧一畑軽便鉄道104号)

■弘南鉄道大鰐線(青森県弘前市～大鰐町)
ED221(昭和2年製)

■一畑パーク 昭和36年から昭和54まで旧平田市にあった山陰随一の遊園地。ライオン、象(パコちゃん)、猿などの動物園とともに、飛行機、豆自動車、豆汽車、びっくりハウスなどの遊戯施設が立ち並んでいた。まさにそこは歌にあるように、「楽しいかわいい夢の国」だった。(ポスター:一畑電気鉄道(株)蔵)……表紙に掲載



デハ23号(古代出雲歴史博物館に展示)



ED221

古代出雲歴史博物館 開館三周年にあたって

島根県立古代出雲歴史博物館名誉館長 京都大学名誉教授 上田正昭

本年の3月10日で、島根県および県民の皆様のご理解・ご協力によってめでたく開館三周年を迎えました。全国の国公立の博物館のなかで、古代を冠する歴史博物館は当館のみですが、島根県の地域が古代以来いかに日本の歴史と文化の発展に大きく関与し、かつまた独自の役割を果たしてきたかが、その展示と研究・普及の活動によって、遺憾なく発揮されてきました。

平成2年に島根県古代文化活用委員会は、つぎの三つを知事さんに答申しました。その第一は古代文化を活用するためのセンターの設立であり、第二は古代出雲文化展の東京・大阪・松江での開催であり、第三は古代出雲歴史博物館の開設でした。そして、そのすべてを実現していただきました。その構想の段階では古代を冠することにはかなりの反対もありました。

しかし、私どもが古代を冠することにこだわりつづけましたのは、単なる通史の歴史博物館では、財政の厳しいおりからあらためて創設する必要はなく、島根では古代的精神が島根の地域の中世にも近世にも、さらに近・現代にもよみがえって生きつづいており、その個性ある特色を内容とすることによって、博物館のいのちが輝くと堅く信じていたからです。

実際に、国宝の神庭荒神谷遺跡の銅剣358本・加茂岩倉遺跡の銅鐸39個をはじめとする充実した展示のなかみは、明治28年のころからいわれつづけてきた、山陰＝裏日本とみなす偏見を史実にもとづいて明確に問いただしてまいりました。内外の多くの参観者の方々から「出雲の歴史と文化はすごい」とか、「島根県の歴史と文化を見直した」とか賛美の聲が寄せられました。

島根県立古代出雲歴史博物館開館三周年を迎えて、より一層研究を幅広く深め、展示の内容を充実し、県民の皆様への誇りと自信を培い、島根の文化を発信する歴史博物館としてますますの前進をめざしたいと存じます。今後ともよろしく御支援いただきますよう衷心よりお願いいたします。

25周年（荒神谷青銅器）

昨年、日本の古代史を塗り替えた荒神谷の358本の銅剣が発見されて25周年。今年は同じ荒神谷から銅鐸・銅矛が発見されて25周年。来年は、加茂岩倉から銅鐸が発見されて15年となります。古代出雲の青銅器にふたたび注目です。

1300年（古事記編纂）

712年（和銅5年）に編纂された古事記。

2年後の2012年で1300年の時を刻みます。

古代出雲歴史博物館では、本年はプレ企画展として秋に「神々のすがた～古代から水木しげるまで～」来春「神々の国・出雲の壮大なる交流」を開催する予定です。

10周年（出雲大社巨大柱）

古代出雲歴史博物館の展示室に入るとき、必ず目に飛び込んでくる「宇豆柱」。

開館以来、おそらく100万人近い人々の目に触れてきました。そして、760年の時を経て、出雲の歴史の壮大さとともに新たなロマンをかきたてつづけています。

記念すべき年に、重要文化財となりました。

10周年・25周年・1300年・・・

発見から10年・・・ 重要文化財に指定される出雲大社巨大柱

古代出雲歴史博物館 学芸部長 松本岩雄

博物館の展示エリアに入るとまず目に飛び込んでくるのが、出雲大社境内で発見された巨大柱。直径1m以上の巨木を3本束ねにして1本の柱とする世界に比類のない木造建造物の柱です。3月19日に開催された国の文化審議会で、重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申されました。

重要文化財の名称は「島根県出雲大社境内遺跡（旧本殿跡）出土品」で、員数は総数70点です。このうち柱材は心御柱3点、宇豆柱3点ですが、ここで見逃してはならないのは、そのほかの出土品の重要性です。

一つは礎板（1点）とされるスギの板で、心御柱の直下に置かれていたものです。年輪年代測定の結果、伐採年代が安貞元（1227）年以降あまり降らないことが判明しました。そのことから出雲大社の古文書をも参考にし、巨大柱の旧本殿は鎌倉時代の宝治2（1248）年の造営と推定することができました。

次に鉄製品38点があります。本殿建築に使用されたとみられる釘、鏝（かすがい）、带状金具などです。とりわけ宇豆柱の下から出土した2点の手斧は、柱を立てる際の儀式で使用されたのちに埋納されたものと思われ、柱立ての儀式を考えるうえで重要なものです。

土器は25点あり、いずれも軟質の土師質土器で祭祀に用いられた可能性が高いものです。器種は皿、坏、柱状高台付坏などで、柱穴の内部や柱の上面から出土しています。柱を立てる際の祭祀、本殿を建て替えるために地上部分を撤去した際の祭祀などの様子を知る上で重要な手掛かりとなるものです。

スギ板や鉄製品や土器は巨大柱に比べると目立たない出土品ですが、このように、年代を押しえることができ、柱立てと本殿の機能を終えた段階の祭祀にかかわる貴重な資料であり、セットで存在することから学術的価値を一層高めるものです。重文指定を機に柱だけではなく、土器や鉄製品もじっくり鑑賞してみたいはいかがでしょうか。



平成12年(2000年)4月5日に発見された宇豆柱



宇豆柱の直下に納められた鉄製の手斧



心御柱の下に置かれていたスギ板(礎板)



祭祀に用いられた土師質の土器

「千家十職」への誘い

交流普及グループ課長 浅沼政誌

今年の夏休み期間中を中心に開催予定の特別展「茶の湯のものづくりと世界のわざ 千家十職×みんなぱく」は、2009年3月12日から6月14日まで、大阪府吹田市の国立民族学博物館（愛称：みんなぱく）で開催された特別展をもとに、巡回展として当館で開催するものです。

「千家十職」は、京都で千利休以来、お茶の家元である三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）の茶道具を制作している十家のことを指します。茶の湯に関わるあらゆる道具をつくり出してきた日本を代表する家々です。一方、国立民族学博物館は、1970年に開催された日本万国博覧会会場跡地に、1974年に開館した施設で、世界中の民族とその社会・文化を研究しており、これまで収集された資料は、実に26万点にも達しています。

今回の展覧会は、この26万点もの資料の中から、千家十職の人たちが選び出した世界の民族資料と、触発されて新たに創作された作品、そして、千家十職の人たちが、これまで生み出してきた作品が展示されるという大変ユニークなものとなっています。一見すると、「何の展示なの？」と首をかしげたくになりますが、展示の意図は、「千家十職×みんなぱく」（×：「かける」と読んでください）という、謎解きのようなタイトルにあります。日本を代表するものづくりの人たちが生み出してきたモノと、世界中で生み出されたモノが融合した展示空間から、美や創造の源泉、手仕事のおもしろさ、人間が受け取る多様性や共通性を発見していただきたいと思います。

十家…

【金物師】中川浄益家

【表具師】奥村吉兵衛家

【竹細工・柄杓師】黒田正玄家

【袋師】土田友湖家

【土風炉・焼物師】永樂善五郎家

【茶碗師】樂吉左衛門家

【釜師】大西清右衛門家

【一閑張細工師】飛来一閑家

【塗師】中村宗哲家

【指物師】駒澤利齋家

[古代文化センターだより]

出雲への道・出雲からの道

テーマ研究

「古代出雲の多面的交流の研究」

鳥根県古代文化センター 専門研究員 森田喜久男

3年目に入ったこの研究もいよいよラストスパートです。4年目の企画展はどのようなスタンスで、作品を並べるか。古代出雲を狭い意味での原始・古代に限定しません。後の時代、他の地域の人々が抱いた古代出雲のイメージを大切にしたい。

奈良県桜井市、かつて出雲荘と呼ばれたその場所で、毎年二月十一日にお綱祭りという祭りが行われています。この祭りは、江包と大西という二つの集落からスサノヲを象徴する男綱とクシナダヒメを象徴する女綱を繰り出して合体させ、素盞鳴神社の境内に祭ります。二つの綱は、神社へ向かう途中、泥田の中で土俵になり、そこで綱を運ぶ若者達が相撲をとります。泥だらけになりますが、出雲に寄せる人々の熱い思いが伝わってきます。

来年度の企画展は、狭い意味での考古学や古代史の資料だけでなく、江戸時代の錦絵や明治に作られたノミノスクネの生き人形などさまざまな作品が並びます。そこから、どのような新しい出雲像が見えてくるか…皆さん、楽しみに待っていてください。



「さんいんさんぽ」

～ 倉吉博物館 / 倉吉市 ～

倉吉博物館は、山陰地方有数のさくらの名所として知られる打吹公園内にあります。片流れに赤瓦の屋根、白壁の建物外観は倉吉の町並を象徴しています。展示は、郷土ゆかりの作家の作品を取り上げた美術部門と遺跡からの出土品を展示する歴史部門からなります。また、併設する倉吉歴史民俗資料館には農耕具をはじめ郷土玩具や倉吉餅などを展示しています。

伯耆国庁・国分寺が置かれた倉吉市周辺には、縄文時代から奈良・平安時代にかけて数多くの遺跡が知られており、このうち6ヶ所が国史跡に指定されています。歴史部門では、これらの遺跡の出土品を中心に常設展示し、発見状況の写真などをパネルにして紹介しています。



倉吉博物館外観



常設展示(手前左は上野遺跡出土状況)

古墳時代の展示品には、装飾須恵器2件と土製祭祀具1件の重要文化財があります。野口1号墳出土品は、相撲や狩りの場面を表現しており葬送にふさわしい儀礼専用土器です。装飾須恵器のうち形式的に終末に位置づけられる上野遺跡出土品は、25固体がまとまって見つかり古墳供献前の倉庫跡と考えられるこの遺跡の性格を出土状況を復元して展示しています。古墳時代の精神生活の一端を語る土製祭祀具も豊富です。谷畑遺跡やクズマ遺跡などから土製の人形や馬形をはじめ多種多様な器財が出土しています。

寺院跡や国庁跡の出土品にも逸品があります。伯耆国分寺鬼瓦は、円頭台形の特異なかたちで形相の鋭さとともに伯耆国分寺を代表するものです。大御堂廃寺跡の鬼瓦は鬼の全身像を表現しており、平城京内出土以外では類例のない希少な鬼瓦です。この大御堂廃寺跡からは、朝鮮半島由来の銅製匙も出土しており半島との関連を示す寺院といえます。その他、伯耆国庁跡出土品も一括収蔵しており、硯やベルト金具そして墨書土器といった官衙特有の出土品を展示しています。

倉吉博物館のある打吹公園は、4月から6月にかけて桜が舞いつつじが花咲く季節を迎えます。公園散策の折には是非、倉吉博物館へお立ち寄りください。



野口1号墳装飾須恵器



伯耆国分寺鬼瓦

倉吉博物館

〒682-0824 鳥取県倉吉市仲ノ町3445-8

TEL 0858-22-4409 FAX 0858-22-4415

開館時間 9:00～17:00(最終入館は16:30)

入館料 一般 210円(150円) ()は20名以上の団体
高校生・大学生 100円(50円)
中学生以下・70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方及びその介助者は無料

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)
年末・年始(12/29～1/3)

『特別展』 **BATADEN** 一畑電車百年ものがたり
2010.4.23.FRI ⇄ 7.4.SUN

【特別展】 **茶の湯のものづくりと世界のわざ**
千家十職×みんなぱく
2010年7月23日[金]—9月20日[月・祝]

茶室で使われる道具、露地や水屋で使われる道具など、茶事全般の道具を作ってきた十の家、千家十職。本展覧会では、千家十職の歴史をはじめ、千家十職がそれぞれ選び出した民族資料、そしてそこから新たに生まれた新作など、千家十職のセンスと技の素晴らしさを紹介します。

古事記 編纂1300年
712年～2012年

この秋、出雲で神々に出会う
企画展

神々のすがた

古代から水木しげるまで

2010年10月8日(金)—11月28日(日)



古来日本人は、神を目に見えない人知の及ばない超越した存在と捉えていました。それ故人々は、神像や絵画など神を具像化する上で絶えず模索を繰り返してきました。

本展覧会では、古くから今日まで日本人がどのように神のすがた・かたちを表現してきたかを神像などの展示を中心に、神々に対する日本人固有の心性を探ります。そして『ゲゲゲの鬼太郎』で知られる漫画家水木しげる氏が捉えた神々の姿も紹介します。

古事記 編纂1300年
712年～2012年

企画展
神々の国

出雲の壮大なる交流

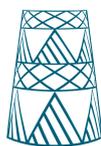
2011年3月4日[金] ▶ 5月16日[月]

日本列島各地に分布するオオアナムチ(=オオクニヌシ)に関わる神話伝承や出雲氏という氏族の分布形態から、鳥根県の出雲地方に限定されない出雲文化圏の実態を明らかにする。また、相撲の元祖とされるノミノスクネの伝承成立の歴史背景として、畿内から出雲へと至る多様なルートを一明らかにし、そのルートにのってどのような形で人・モノ・情報が往来したのか、その具体像を明らかにする。

※展覧会名は仮称です。変更になる場合がございます。



発行/平成22年4月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん